平成２６年度　第１回愛知県生涯学習審議会社会教育分科会会議録

１　開催期日

平成２６年９月８日（月）　１５時４０分から１６時５０分まで

２　場　所

愛知県議会議事堂ラウンジ

３　出席した委員の氏名　８名

足立　誠、安藤正紀、恩田やす恵、志村貴子、鈴木照美、西山妙子、松田武雄（分科会長）、山内晴雄

４　欠席した委員の氏名　１名

加来正晴

５　会議に付した事項

○　議事

(1)　市町村における社会教育委員制度活用の課題と在り方について

(2)　その他

６　議事の経過

○　会長・会長職務代理者の選出

分科会長に松田委員を選出、会長職務代理者に鈴木委員を指名

○　会議録署名人の指名

分科会長から足立委員と安藤委員を署名人に指名

○　市町村における社会教育委員制度活用の課題と在り方について

事務局から資料により説明

これに対する各委員からの意見は別紙のとおり

○　その他

特になし

【市町村における社会教育委員制度活用の課題と在り方について】

＜各委員の意見要旨＞

○　豊田市が社会教育委員制度を廃止した経緯及び教育委員会制度の見直しと今回の調査との関わりをどう考えているか。

→事務局：　豊田市については少し前から首長部局で生涯学習課としてやっていた。また稲武等の合併もあり、社会教育について喫緊の課題として進めていきたいということであった。教育委員会の中での社会教育委員会となると教育委員会を通して答申が上がってくるということとなり、仕組みを変えた。

教育委員会制度の見直しと社会教育委員の人数が減ってきていることなどは、相互に関わり合いながら進んで来ていることではないかと認識している。

○　社会教育委員の役割を考えると様々な課題がある。それを少し変えていけば社会教育委員の仕事はもっと進むのではないか。市町村では会議を１～２回程度行われていることが多いのではないか。今までやってきた事業そのものについて、どうですかということを協議している市町村が多いのではないか。時代の流れ、市民のニーズ、特色を生かした事業が進んでいるのかという観点で見直さなければいけない事業が出てくる。

市町村の社会教育委員会議では、これからの社会教育がどうあるべきなのかという諮問が少ない。教育委員会のなかの生涯学習課の中の社会教育という構造に問題があるのか、本当にそれが問題の本質なのか考える必要がある。

また、委員を長くやっている場合もある。例えば５年とか 10 年とか経過したら次の人に引き継ぐ、次の委員を育てることも必要なのかなとも思う。

○　以前は年 12 回少なくとも年６回は会議を開催しているところが多かった。市町村独自で社会教育委員研修会を開いて、社会教育委員になったばかりの人に、「社会教育委員とは」という研修を行っていた。現在、市町村でそういった基本的な研修ができないとすれば、県でそのような研修をやらないと社会教育委員の役割がわからないままになってしまうのではないか。

○　委員が自主的に行っている研修会や会議があると思う。手弁当で自主的に 10 数回行うようになったら、それまでの市の予算化してあった回数は３回ぐらいであったが７回に増やしてもらった。研修会や研修旅費の予算化が難しいが、各委員はどうすべきかいろいろ考えている。

→事務局：　県の役割として、社会教育委員の研修の場を設定する必要があるのではないかというお話があった。例えば名古屋大学にお世話になって、市町村の社会教育に携わる行政の方、公民館の方にどんなことに携わってもらわなければならないか勉強してもらっている。そういう学習の場を県が設定していかなければならないということに気づいて始めたところである。

社会教育委員の研修もアンケートを踏まえて検討していく。

○　実態調査において、市町村で予算の計上がないが、手弁当の会がないかそういう設問を設けていただきたい。

○　事務局対象の設問 13 番に市町村主催の研修会の回数という項目があるが、内容といったものも調べていただきたい。

○　自由記述も設けていただきたい。なお、特に県下の中でも注目すべき魅力的な、ユニークな活動事例があれば紹介していただきたい。

○　委員になる前に社会教育委員制度を知っていたか、周りの人が知っているか、というような設問を設けてはいかがか。

○　仮説を持って調査すべきではないか。そうすれば報告書をどのようにしていくのか見通しを持つことができるのではないか。

→事務局：　国立教育政策研究所が出した報告書も踏まえながら報告書を作成していきたい。

○　どういうことを社会教育委員としてやりたいと思っているのか設問が欲しい。行政が用意したものだけでなく、社会教育委員として地域でやりたいという気持ちもあるのではないか。